



〈代表取締役〉
黒木 信吾
くろき しんご

〔座右の銘〕
細部に神が宿る

Q2 ブランド力を高めるためには？

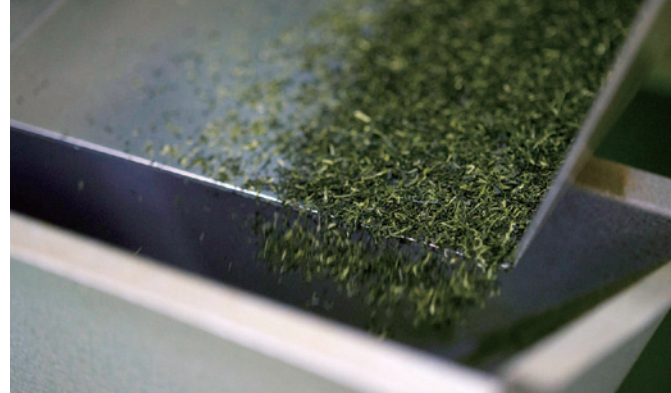
A 従来、宮崎のお茶は原料ベースで出荷されることが多かったのですが、宮崎茶として全国に発信できる商品を作っていきます。

Q3 今後の展望は？

A 5年後には二番茶、三番茶の加工量30%アップ、それに伴う売上高増加が目標です。全国はもちろんですが海外も視野に入れて販路拡大に取り組んでいます。

Case 08 日本茶の生産・加工・販売 株式会社 新緑園

〒889-1406 宮崎県児湯郡新富町大字新田15530-2 TEL 0983-35-1057



Q1 他社との差別化は？

A 一番茶における産地競争もさることながら、二番茶、三番茶の差別化が難しかったのですが、独自性を出した付加価値の高い商品ができたので、今後は全国に展開していきます。

同 社では今年、商品開発・ブランド戦略部を立ち上げて新たな取り組みを始めました。緑茶市場のニーズを分析した商品開発やマーケティングを行い販売を促進しています。また売り手の情報を消費者に伝える工夫や、スッキリした洗練されたデザインの商品パッケージを作成することで、首都圏の若い消費者層の開拓も積極的に行っています。



お茶を全国にアピールして、宮崎茶を一人でも多くの人に味わっていただきたいですね」



二番茶・三番茶にも光を当て新たな価値を創出

全

国茶品評会で農林水産大臣賞を3年連続で

受賞したり、ANAの国際線ファーストクラス機内に採用されるなどの数々の実績を誇る新緑園。

「茶産業は全体的にも厳しい状況にあります。ティーバッグやペットボトルのお茶は増えているのですが、急須でお茶を飲む方が減ってきたため茶葉の需要は減少しています。

お茶は摘み取った順に一番茶（新茶）、二番茶、三番茶、秋番茶に分けられます。一番茶においては一定の評価を戴いてきましたが、今回、補助金を活用して新しい設備（色彩選別機・焙煎機）を導入したのは、中級茶葉として取引されている二番茶と三番茶の味や香りを高めて、他社にはない品質の高い商品を全国に向けて提案したいと考えたからなんです」と、黒木社長は話します。

株式会社 新緑園

宮崎茶の付加価値を高めて全国ブランドへ

宮崎茶のブランド力を高める緑茶商品開発にチャレンジ。二番茶と三番茶の味と香りを高めるための焙煎を行い、新たな商品価値を創出しました。



と風味や香りが足りないお茶が多いので他社との大きな差別化ができなかったのだと言います。

「導入した設備で焙煎をじっくり行うことで、とても良い香りの二番茶、三番茶ができました。県外のバイヤーの評価も上々です。焙煎加工している時に私自身も、いい香りのお茶になっている」と実感できる自慢のお茶に仕上がっています」

ものづくり補助金活用 ここがポイント



色彩選別機・焙煎機の導入で、高品質の緑茶商品が誕生

これまでより部位選別の精度が向上し、十分な焙煎も可能となったことで品質・生産性の向上につながりました。

シンプルで洗練された商品パッケージ。品質の高い商品で日本茶ファンを増やしていきます。

